

様式 1 【算数・小6・比「割合の新しい表し方をしらべよう」】①

育成を目指す資質・能力

- ・比の意味や表し方、比の値、比の性質の理解。
- ・2つの数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったり、比を簡単にしたりすることの理解。
- ・数量の関係について、割合に着目してとらえ、比で表し、比の性質などを用いて、問題を解決したり解決方法を説明したりする力。
- ・割合を比で表すよさや比を用いた問題解決のよさに気づき、生活や学習に生かそうとする態度。

ICT活用のポイント

- ・既習事項の活用を図ったり、自他の考えを比較して学びを広げたり深めたりする。
- ・効率的に適用問題を行うとともに、児童の取組を蓄積し、習熟度を把握して個に応じた指導に生かす。

事例の概要

本時の課題を把握し、解決の見通しをもつ。

自力解決を行う。

考え方を共有し、本時の学習をまとめる。

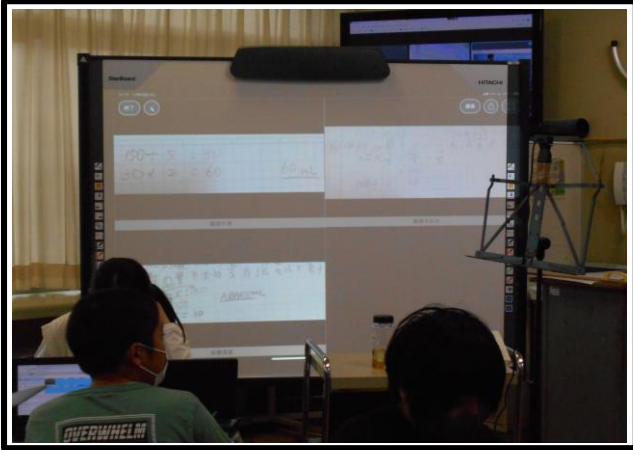
適用問題に取り組む。

- 授業者が問題を学習支援ソフトの画面通信機能を活用して児童に配信し、学級全体で題意を把握し、めあてを立てる。
- 児童が課題解決の見通しをもてるようにするために、授業者が前時の学習内容を学習支援ソフトの画面通信機能を使って配信し、学級全体で振り返る。
- 児童は自力解決の、学習支援ソフトの共有フォルダに入っている既習事項を、必要に応じて参考にする。
- 児童は自分の考えを表現したノートをカメラで撮影し、学習支援ソフトで提出する。
- 授業者が、提出された画像の中から同じ考え方をしているものをピックアップし、児童へ画像配信して対話的学習活動へつなげる。

- 児童は、学習支援ソフトのアンケート機能を活用し、適用問題と本時の振り返りに取り組む。

【小6・算数・比「割合の新しい表し方をしらべよう」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

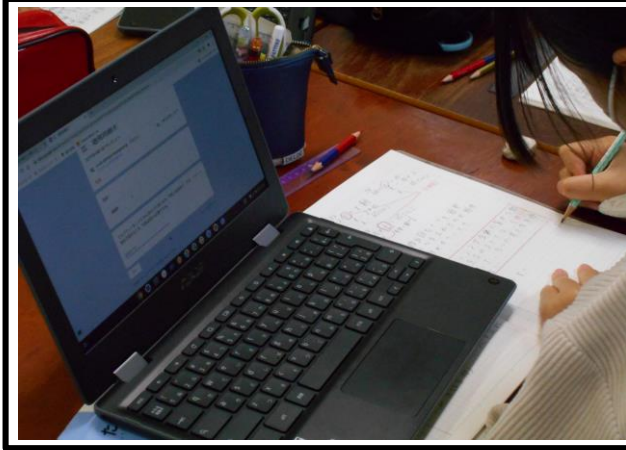


- 児童から画像提出されたノートを活用し、本時のめあてを追究する。
- 児童全員の考えを一覧で提示するのではなく、授業者が考え方を焦点化して提示する。

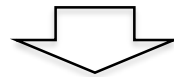


- 同じ考え方でも誤答になっていることがある。焦点化して示したことで、過程を比較することができ、児童が誤りに気付くことができていた。その気付きから、対話的な学びが生まれ、誤答を正答へ導くことができていた。
- 3つの考え方をそれぞれ焦点化し、共有してから比較したことで、それぞれの考え方のよさを明確にすることができた。

【事例におけるICT活用の場面②】

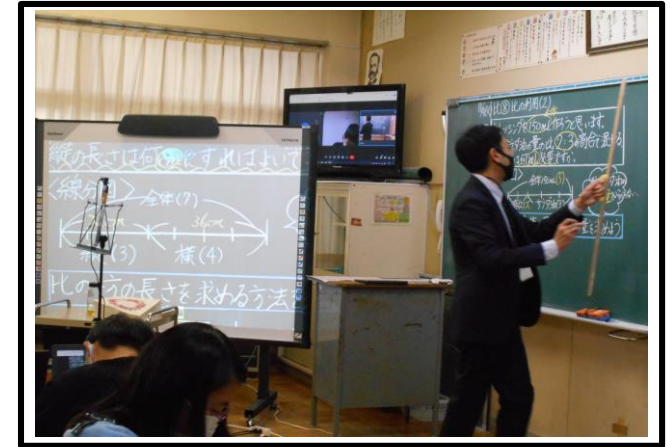


- 児童の適用問題への取組と振り返りを学習支援ソフトで管理・蓄積する。



- 本時の学習について、児童の習熟を把握し、次時以降の指導に生かすことができる。
- 適用問題に対して答えのみの入力なので、思考力の育成をねらいとする授業の際は、考え方を記述したノートの回収等と併用又は使い分けをする必要がある。
- 児童の習熟の程度について単元全体を通して把握し、指導と評価の一体化を図ることができる。
- 児童は、毎時間の振り返りを残すことで、自らの学びを自覚し調整しながら単元の学習を進めることができる。

【その他】



- 出席停止が続いている児童に対して授業を定点カメラで撮影し、学習支援ソフトを活用してオンライン配信を行った。



- 児童は、画面を見ながら、教室で授業を受けている時と同じ様子で課題に取り組んだり、ノートをとったりしていた。
- 自宅学習をしている児童にとっては、教室で行われている授業を同時に受けることができ、学習の遅れに対する不安を軽減することができる。
- 授業者は、児童の取組に対して即時の直接支援は難しいが、登校再開後の支援につなげることができる。

【活用したソフトや機能】

- 学習支援ソフト ○カメラ